

7 - 1 0 有馬 - 高槻 - 六甲断層帯近傍における 1995 年兵庫県南部地震以降の主歪の変化

Temporal change of principal strains along the Arima-Tkatsuki-Rokko fault zone

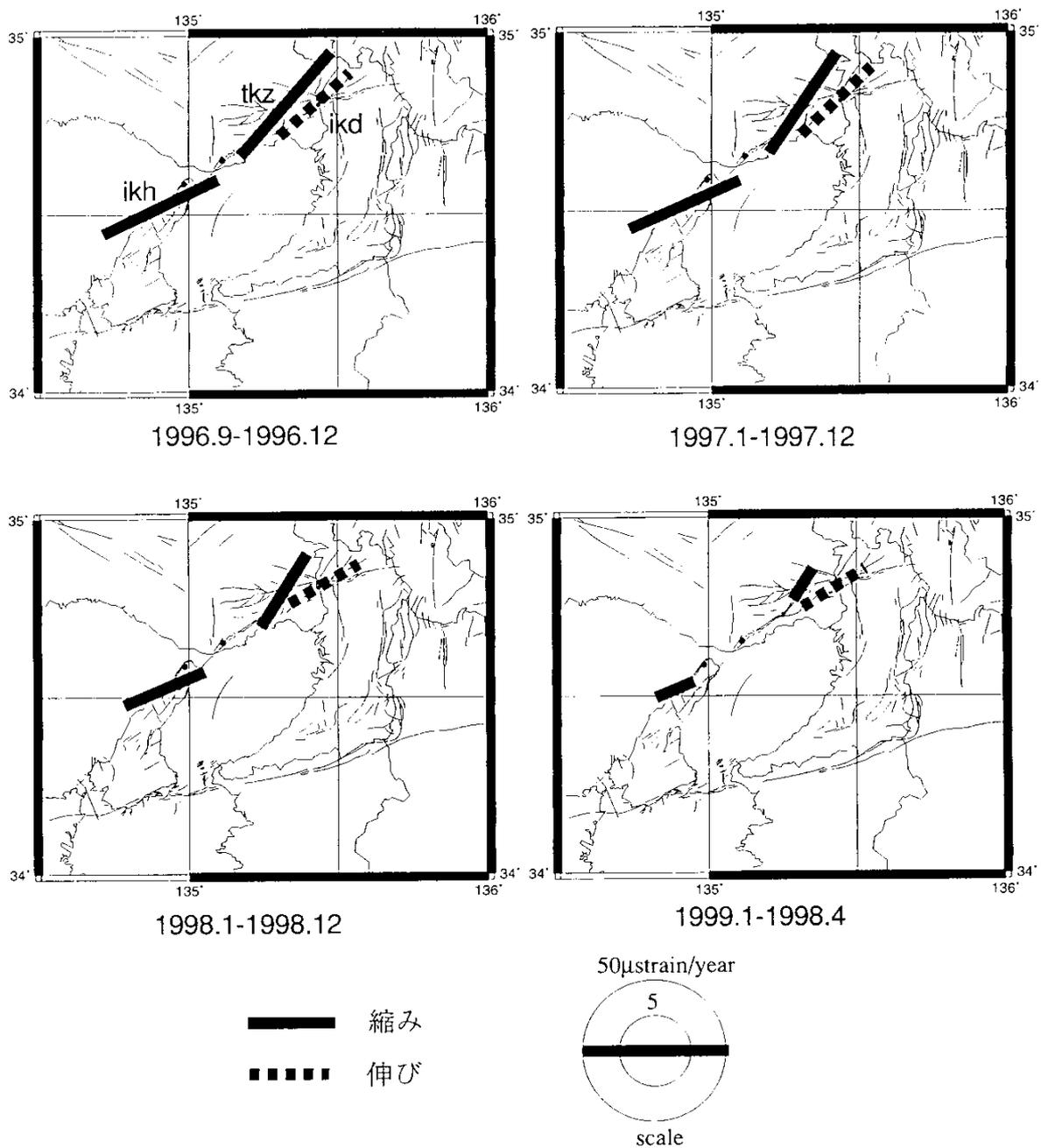
地 質 調 査 所
Geological Survey of Japan

1995 年兵庫県南部地震の後に地質調査所が設置した 3 成分歪計の観測が開始されてからほぼ 3 年が経過した。今回は有馬 - 高槻 - 六甲断層帯近傍における観測点（池田;ikd, 宝塚;tkz, 育波;ikh）について 3 成分歪計による歪変化長期トレンドの観測から明らかになった主歪の時間変化について報告する。

第 1 図は歪計設置後の約 3 年間の上記 3 観測点での主歪の方向と絶対値の変化を示す。図から、以下のことが分かる。

1. 主歪みの方向と極性については宝塚はほぼ北東-南西方向に縮み、池田はほぼ北東-南西方向に伸び、育波は東北東-西南西方向に縮みである。
2. 主歪の方向については地震後 3 年間、ほとんど変化はない。
3. 主歪の絶対値は時間とともに減少している。これは岩石の非弾性による応力緩和過程によるものと考えられる。他の要因については以下のように考える。歪計設置のためのセメント膨張剤については使用していないことから、セメント硬化の影響は小さい。また、温度変化の影響についても検討したが、歪の長期トレンドへの影響に対しては支配的ではないと考えられる。

（桑原保人・伊藤久男）



第1図 有馬・高槻・六甲断層帯近傍の主歪の変化

Fig.1 Temporal change of principal strains along the Arima-Takatsuki-Rokko fault zone.